令和7年度オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会
議事概要

１．開催日時及び場所

日　　時:令和８年３月 11 日(水)14:30～17:30
会　　場:釧路地方合同庁舎　5階第一共用会議室
実施形態:オンライン併用

２．出席者一覧(敬称略)

【検討委員】(五十音順、敬称略)

河口　洋一　　新潟大学　佐渡自然共生科学センター　教授
黒澤　信道　　日本野鳥の会　釧路支部　支部長
小菅　正夫　　北海道大学　客員教授
齊藤　慶輔　　猛禽類医学研究所　代表
中川　元　　公益財団法人　知床自然アカデミー　業務執行理事

【関係行政機関】（順不同）

北海道開発局開発監理部開発連携推進課、北海道森林管理局計画保全部計画課、北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課、北海道環境生活部自然環境局自然環境課

【オブザーバー・関係者】　（順不同）

釧路市市民環境部環境保全課、猛禽類医学研究所、釧路市立博物館、札幌市円山動物園、旭川市旭山動物園、根室市歴史と自然の資料館、特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所、JR北海道釧路支社

【環境省】

北海道地方環境事務所、釧路自然環境事務所、釧路湿原自然保護官事務所、羅臼自然保護官事務所、大雪山国立公園管理事務所

３．議事

(0)昨年度、オジロワシ・オオワシ保護増殖検討会後にいただいたご意見への回答につきまして

◎環境省

口頭により説明

＜質疑応答、意見等＞

・　(齊藤委員)再生可能エネルギーの建設に際しては、「猛禽類保護の進め方」に準拠した調査、少なく

とも繁殖期の調査を実施するように環境省から表明してほしい。

→（環境省）現段階では法令的に明言できない部分があるが、法改正等を含めて前向きに進めたい。

・ （黒澤委員）希少種に限らず文化庁から天然記念物についての色々な指導等があると聞いている。環境省と文化庁の役割分担をはっきりさせてほしい。

→（環境省）文化庁と連携を取りながら検討を進めていきたい。

・ （黒澤委員）バードストライク対策として環境省からのミクロな視点での指導があれば、被害は大きく違ってくると思われるのでお願いしたい。

→（河口委員）バードストライク対策では、事後モニタリングの結果をどう活用していくかということが非常に重要である。

→（環境省）事業者とも連携してバードストライクの発生について検証し、今後に活かすよう検討している。

・ （黒澤委員）検討委員の連名で鉛弾の規制についての要望書を提出しているが、その後の動きはどうなっているのか。

→（環境省）鉛弾への対策は、今年度より「鳥類の鉛汚染による影響評価検討会」から「鳥類の鉛汚染対策検討会」と名称を変更し、法令の専門家や捕獲実務に詳しい専門家を新たに含め、新しい体制で取り組んでおり、2030年までに鉛中毒ゼロ達成を目指して動いている。

→（黒澤委員）要望書に代替弾の流通が悪いのではないかという記述があったと思うが、それについてはどう進んでいるのか。

→（環境省）把握できていないため、担当部署に確認する。

（1）令和7年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業の実施結果及び令和8年度実施計画について

◎環境省

資料1－1～1－5、資料1－3別紙1～別紙2に基づき説明

◎北海道開発局

資料2－1～2－2に基づき説明

◎北海道森林管理局

資料3に基づき説明

＜質疑応答、意見等＞

・ （黒澤委員）根室では、巣内のオジロワシの幼鳥が高病原性鳥インフルエンザにかかって死亡したという情報が多数あると聞いた。何か情報を掴んでいるか。

→（環境省）発生したことは把握しているが、多数あるということに対するエビデンスは持っていない。

→（黒澤委員）根室の情報は、エビデンスをとって整理してほしい。

・ （齊藤委員）オジロワシの巣内雛が死亡した頃、海鳥の高病原性鳥インフルエンザが発生していたこと

から、親が運んだ感染したカモメ類などの餌によって感染したのではないかと推測する。
→（黒澤委員）陸上ではカラスが、海上ではカモメが高病原性鳥インフルエンザを伝播すると言われている。影響のある種については多くの死体回収を行い、検査する体制を作ってほしい。

・ （齊藤委員）高病原性鳥インフルエンザのために収容していたオオワシに投薬治療を行い、リハビリを経て放鳥することができた。世界初のことであるため公表してほしい。

・ （齊藤委員）密猟と思われる個体は、どこで被弾した個体が多いのか環境省は把握しているのか。そういう傾向を分析する必要がある。検死解剖した際に被弾していることがあるため、今後は被弾の情報を共有する。
→（環境省）密猟と疑われる件数は数年に一度程度のため、情報を把握するのは難しい。

・ （根室市）根室市ではガイドラインがあり文化財保護法と合わせて風力発電事業の差し止めや、事業実施前の調査のほか、保全措置や事後モニタリングを課した例がある。地域に学芸員等の野生動物に精通した職員がいない場合でも、自治体職員が専門家にアドバイスを受けられるような包括的な仕組みが必要である。

・ （根室市）野鳥の会による調査では、根室市内の風連湖と沿岸中心にあるオジロワシ13巣の内、昨年の繁殖成功率は0巣であった。例年の5巣以上の繁殖成功率と比較すると少ないため、高病原性鳥インフルエンザとの関連性が高いと考える。

・ （齊藤委員）浜里ではセンサーによる自動音響装置を導入しているが、バードストライクに対して効果が出ていない。環境省よりその事実を通知すべきである。また、悪天候時に停止中のブレードに激突した事例があった。環境省からブレードの色を視認性の高い色に変更してもらうなどの調整をしてほしい。
→（環境省）音響装置による対策には効果が無いことを情報発信し、新しい方法を検討していくことが重要だと考えている。ブレードの色については国立公園内ではないため環境省から指導しているわけではない。場所によっては導入可能だと思われるが、恐らく制度や地域の意見交換により決定しているのではないか。
→（河口委員）風力タービンを塗装して視認性を高めることに関する科学的な研究があるが、有効性は不明と結論づけられている。世界中の科学的知見を集めることが重要である。

・ （河口委員）環境省では北海道開発局からの報告データをもっと活用すべきである。
→（環境省）活用を検討・協議させていただく。

・ （中川委員）来年度、アクションプランの進捗状況を中間でとりまとめ、今後取組むべき重点項目を整理してほしい。
→（黒澤委員）河川でのウライを外すことにより上流にサケ・マスが遡上していることがある。今後自然採餌地として活用できるか調べてほしい。
→（河口委員）孵化放流事業の河川を中心に自然採餌地として活用できるか調査すると良い。
→（環境省）今後も情報収集を進めていく。

（2）関係者からの報告

◎北海道環境生活部自然環境局

資料4－1～4－3に基づき説明

◎小菅委員

資料5－1～5－2に基づき説明

・域外個体群の保全について今後どのように構築していくか、本検討会議で検討いただきたい。

・水族館でも終生個体を飼育、展示してもらい保護増殖事業についても周知活動してはどうかと考える。

◎河口委員

資料6に基づき説明

＜質疑応答、意見等＞

・ （黒澤委員）時間の制約があるため、昨年同様に検討委員から質問や意見を提出し、環境省の対応を確かめたい。

（3）餌付け対策について

◎環境省

資料7－1～7－2、資料7－1別紙1～別紙4、資料7－2別紙に基づき説明

＜質疑応答、意見等＞

・ （黒澤委員）餌付けの削減量は全体の数パーセントだが、観光船事業者には今後も協力いただけそうなのか。

→（環境省）餌量を削減しても顧客満足度が維持されれば協力したいと言われている。毎年削減していけるよう取組を進めている。

→（中川委員）自然状態での海ワシを見たい観光客も少なくないと思う。そういう方向になっていけば良い。

→（環境省）海ワシの確認数が少ない場合でも満足度は高く、確認数と満足度には関連性が無いと考えている。

・ （齊藤委員）羅臼では餌付け量が14トンにも及んでいる。万が一羅臼で高病原性鳥インフルエンザが蔓延した場合の対応を考えているのか。

→（環境省）長年上手くいかなかった餌付け量削減について、コミュニケーションを取りながらようやく少量でも削減することができた。高病原性鳥インフルエンザの蔓延の心配もあり、自然状態での姿を見せることの価値の高さをアピールするなど、乗船時の行程をデザインして事業者に提案するなどの工夫ができると考えている。羅臼海域連絡協議会では高病原性鳥インフルエンザが蔓延した場合の対応に

ついて今後議論を進めていく。ワシ類の死体が海に浮いている等の異常については、事業者の協力を得て早期に情報が共有される体制ができている。

・ （根室市）根室市では、観光目的の餌付けによりワシ類が高密度に集中し、高病原性鳥インフルエンザへの感染リスクが高まっている。 北海道の「北海道生物多様性の保全等に関する条例」の「指定餌付け行為」に該当する可能性が高く、 当該行為に対する必要な措置の検討と実施を北海道庁へお願いしたい。

→（黒澤委員）北海道庁は環境省へ回答してほしい。

（4）列車事故対策について

◎環境省

資料8に基づき説明

＜質疑応答、意見等＞

・ （黒澤委員）エゾシカ覆隠シートを試験的に使い始めたのは昨年の3月からなのか。

→（環境省）昨年の3月からエゾシカ覆隠シートの試行を始めたが、ヒグマの行動期には使用せず、冬期に試行を行っている。今年度のデータが出揃っていないため因果関係は今後検証していく。

→（JR北海道）今年度のエゾシカ覆隠シート試行実績は20件ある。鳥類に突かれた様子等も確認されておらず、対策は有効だと考えている。課題としては、エゾシカとの事故は夜間に多く周囲が暗い中で、死骸のある地表の環境も多岐に渡るため、運転士がシートを被せづらいことがある。また、エゾシカ覆隠シートは使い捨てであるため、費用が多額になるなど、いくつかの課題がある。

→（齊藤委員）釧路管内以外でもエゾシカ覆隠シートを使っていただける可能性はあるか。

→（JR北海道）釧路支社以外への展開は進んでいない。

→（環境省）昨年度と今年度で旭川支社や釧路支社に協力いただき、釧路管内以外での事故発生状況等を調査している。来年度は事故の発生しやすい場所の共有のほか、何らかの対策を行うための話し合いを釧路管内以外でも実施予定である。

（5）その他

・ （黒澤委員）資料1－4アクションプランの実施状況については、進捗状況を具体的な期日や項目とともに示してもらいたい。

・ （齊藤委員）オオワシ・オジロワシのロシアにおける生息状況の変化などの情報を環境省は把握しているか。

→（環境省）情報を得るのが難しい状況である。

以上